

# I 調査の概要

## 1 調査の概要

(1) 調査の目的 県内の児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づく個に応じた指導などを実施する契機とする。

(2) 調査の時期 平成27年11月2日(月)～11月13日(金)

(3) 調査の対象 県内公立学校の小学校第3学年から中学校第2学年までの全ての児童生徒  
 ・学校数 小学校169校、中学校73校  
 (附属学校及び県立学校を含む)

・児童生徒数

[単位：人]

校種・学年 教科	小学校				中学校	
	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年
国語	8,435	8,425	8,804	8,789	8,790	8,582
社会			8,804	8,790	8,790	8,594
算数・数学	8,434	8,426	8,800	8,789	8,789	8,581
理科			8,806	8,781	8,788	8,506
英語					8,776	8,585

## (4) 調査の内容

### ① 教科に関する調査

- ・ 実施教科
  - 小学校 第3、4学年 : 国語、算数 (2教科)
  - 第5、6学年 : 国語、社会、算数、理科 (4教科)
  - 中学校 第1、2学年 : 国語、社会、数学、理科、英語 (5教科)
- ・ 出題範囲
 

前学年までに学習した内容及び当該年度前期(4月～9月末)に学習した内容
- ・ 問題の質と量
  - ア 「基礎的・基本的な知識及び技能」や「知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」に関する学習指導要領に即した問題
  - イ 1教科あたり1単位時間(小学校45分、中学校50分)で解答できる量(ただし、小学校第3、4学年については35分とする。)

### ② 児童生徒質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習や生活の諸側面等に関する調査を質問紙の形式で実施する。

### ③ 学校質問紙調査

学校における各種の取組や児童生徒の状況等に関する調査を質問紙の形式で実施する。

#### (5) 調査結果の活用

香川県教育委員会及び各市町（学校組合）教育委員会や学校は、本調査の目的を達成するため、次のような結果を活用した取組に努めることとする。

- 各学校は、自校で編成・実施している教育課程を評価する資料の一つとして調査結果を活用し、学習指導に係る検証改善サイクルを確立するように努める。
  - ・ 当該年度前期までの学習内容の定着状況を確認、教員が自身の指導を振り返り、指導方法の改善を図るとともに、児童生徒の理解の状況に応じて、発展的な学習や補充的な指導などを行う。
  - ・ 質問紙調査の結果から、児童生徒の状況に応じて「授業規律の確立」「学習意欲と学習に向かう態度の育成」「学習方法の指導」等の取組の推進を図るとともに、児童生徒や保護者に対して、良さやつまずきの状況を説明し、生活や学習の状況について、これまでを振り返り、これからの見通しを持つ機会を設ける。
  - ・ 分析・検証の際にまとめられた成果と課題に基づいて、本年度の年間指導計画や校内指導体制等を見直し、次年度計画を作成する。
  
- 香川県教育委員会及び各市町（学校組合）教育委員会は、教育施策の成果と課題を把握・検証し、教育施策の改善に努めるとともに、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援を行う。

#### 【児童生徒質問紙調査の質問番号について】

本報告書に記載されている質問番号は、小学校第5学年から中学校第2学年までに行った質問項目である。

なお、小学校第3、4学年に行った質問項目は、児童生徒質問紙一覧（p44）を参照。

## 2 調査結果の概要と改善の視点

### (1) 調査結果の概要

#### 教科に関する調査

#### ① 平均正答率

- ・ 小学校では、概ね定着している。(p12)
- ・ 中学校では、社会に課題が見られるものの、全体としては概ね定着している。(p12)

#### ② 調査内容別平均正答率

- ・ 小学校では、全体的に概ね定着しているが、「基礎的・基本的な知識・技能」については、理科で課題が見られる。(p16)
- ・ 中学校では、全体的に概ね定着しているが、「基礎的・基本的な知識・技能」については、社会、理科で課題が見られる。また、「思考・判断・表現」については、国語で課題が見られる。(p17)

#### ③ 観点別平均正答率

- ・ 小学校では、国語の「話す・聞く能力」の正答率が他の観点と比較して高い。理科の「観察・実験の技能」については、課題が見られる。(p16)
- ・ 中学校では、国語の「話す・聞く能力」の正答率が他の観点と比較して高い。英語の「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」については、課題が見られる。(p17)

#### ④ 全問不正解率

- ・ 小学校における全問不正解の児童の割合は、0.1%程度で低く、成果がうかがえる。(p19)
- ・ 中学校における全問不正解の生徒の割合は、昨年度より減少して改善傾向にある。(p19)

#### ⑤ 平均無解答率

- ・ 小学校では、昨年度とほぼ同等である。(p19)
- ・ 中学校では、第1学年で低下しており、改善傾向にある。(p19)

#### ⑥ 類似問題 (H23～H26 県調査問題)

- ・ 小学校及び中学校の類似問題において、「3ポイント以上上回る」及び「ほぼ同等」の問題数から、学習状況の定着がうかがえる。(p20)

#### 児童生徒質問紙調査

- ・ 「自分によいところがありますか」の質問について肯定的に回答した生徒の割合は、中学校第2学年では59.7%であり、昨年度から2.0ポイント増加している。(p22)
- ・ 「分からないところは先生や友達に質問して解決していますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校第5学年で78.5%、中学校第1学年で67.8%であり、それぞれ昨年度から3.8ポイント、6.8ポイント増加している。(p26)
- ・ 「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上通話やメール、インターネットをしている」生徒の割合は、中学校第2学年では49.7%であり、昨年度から3.3ポイント増加している。(p29)

#### 学校質問紙調査

- ・ 「児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていますか」の質問について、「よく行っている」と回答した学校の割合は、小学校で56.2%、中学校で57.5%であり、それぞれ昨年度から5.9ポイント、21.5ポイント増加している。(p104)
- ・ 「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか」の質問について、「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校74.0%、中学校で60.3%である。(p107)
- ・ 模擬授業や研究授業、事例研究など、実践的な研修について、「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校80.5%、中学校で65.8%である。(p107)

## (2) 改善の視点

教科に関する調査については、平均正答率や類似問題の正答率等から見て、概ね定着しているものの、中学校国語「思考・判断・表現」(53.3%)、小学校理科「実験・観察の技能」(60.7%)、中学校英語「外国語表現の能力」(54.0%)など、一部に課題が見られた。

これらの課題を改善し、無解答や全問不正解をさらに減少させるためにも、各学校においては、調査結果から課題となる調査問題を分析することを通して、一人一人の児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、個に応じた指導の充実を図ることが大切である。

また、本調査とともに全国学力・学習状況調査においても課題が見られた「学習意欲」「言語活動」「自尊意識等」について改善していくためには、次期学習指導要領の改訂の方針も踏まえて「子どもの学び」「学校組織運営」の視点から取り組んでいく必要がある。

※ 参考 「授業改善5つの視点」平成27年10月 香川県教育委員会義務教育課、「教育課程企画特別部会論点整理」平成27年8月26日 中央教育審議会

### 子どもの学びの改善（アクティブ・ラーニングの視点）

#### ① 深い学び（授業改善5つの視点：課題設定）

- ・ 暗記・再生型の授業から、思考・発信型の授業へ転換する。
- ・ 問題発見・解決により、思考を活性化する。
- ・ 関連付ける、適用する、説明する、批判的に検討するなどができる活動を取り入れる。

#### ② 対話的な学び（授業改善5つの視点：言語活動）

- ・ 「きちんと教える」ことと、対話的な学びのバランスをとる。
- ・ 習熟を図る課題についても、ペア等で話し合うことで深める。
- ・ 異なる多様な他者との対話によって、ばらばらだった知識をひとまとまりに構造化する。
- ・ 集団であることの一体感とともに自分の居場所を感じさせる。

#### ③ 主体的な学び（授業改善5つの視点：見通し、振り返り）

- ・ 教師中心の授業から学習者中心の授業へ転換する。
- ・ 「どのようにすればよいか」という方法の見通しに加えて、「どうなるのだろうか」という結果の見通しをもたせる。
- ・ 学習内容を「まとめ」として振り返るだけでなく、自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できるよう工夫する。
- ・ 実社会や実生活にかかわる主題に関する学習を積極的に取り入れる。

### 学校組織運営の改善（カリキュラム・マネジメントの視点）

#### ① 教科横断的な視点

- ・ 教科等の縦割りの内容配列と教科等を横断する資質・能力を意識し、どの学年、どの教科においても共通して改善に取り組む。
- ・ 教職員の同僚性を高め、校内の研究体制を工夫する。

#### ② PDCAサイクルの確立

- ・ 目の前の児童生徒の状況を把握するため、学習状況調査をはじめとする調査のデータ等を分析し、その結果に基づき教育課程を見直し、全教員で改善に向けた取組を行う。

#### ③ 教育内容とリソースの効果的な組み合わせ

- ・ 社会に開かれた教育課程の観点から、学校だけでなく、保護者や地域の人々等を巻き込んだり、校区の特色や施設などの教育環境を活用したりする。

## ◆ 「活用ツール」で自校の状況を簡単に分析できる ◆

### 正答率の分布から自校の状況を分析する

香川県教育センターWebサイトからダウンロードできる活用ツールによって、平均正答率の分布と自校の状況を表示することができる。

下のグラフのように、調査実施学年の児童生徒数が20名以上の学校の平均正答率を5段階（区分）に分けて、その割合を示した。県平均と比べてどの程度高いか、低いかで判断するだけでなく、5段階（区分）ではあるが、県内の各学年における教科・内容別の平均正答率の散らばり具合の中で、自校の県内での位置をある程度判断し、分析考察の一つとすることができる。

また、平成26、27年度の2年間のデータを比較することで、同一児童生徒や同学年の経年比較が可能である。

※「同一児童生徒経年比較」「同学年経年比較」については、p55～参照

## ■ 1 教科に関する調査

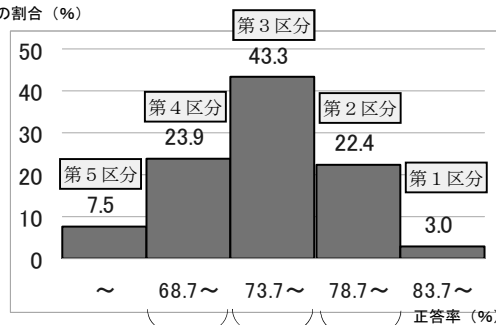
### グラフの用語

●第3区分の中心が平均正答率となるようにグラフを作成

●縦軸は、区分に含まれる学校の割合

●第5区分は表示正答率未満の学校のすべての割合

学校の割合 (%)



●横軸は、正答率の区分

●第1区分は表示正答率以上の学校のすべての割合

●第2、3、4区分の区分の幅は5%

○グラフの作成に際し、調査実施学年の児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。

○教科に関する調査結果については、第5学年以上の学年のグラフを表示する。

### グラフの見方

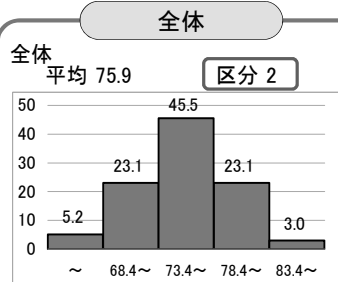
#### A校の例

活用ツールにより、H26、27のデータを読み込むことで、各校における2年間の区分の経年変化を確認できる。

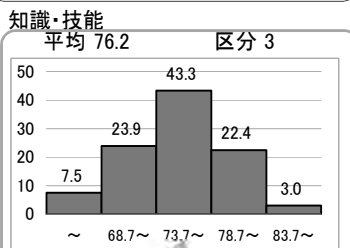
A校の例では、小学校第6学年は、今年度は第2区分であり、第5学年時（前年度）の第3区分と比較して、国語の全体において向上していることが分かる。

### 平均正答率の分布

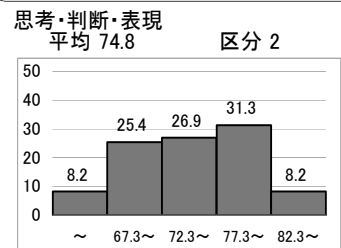
○年度  
6年生  
国語



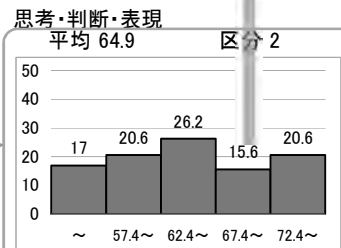
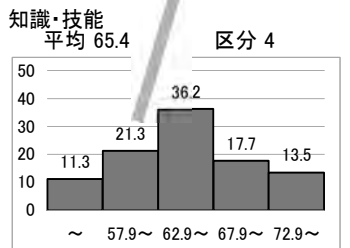
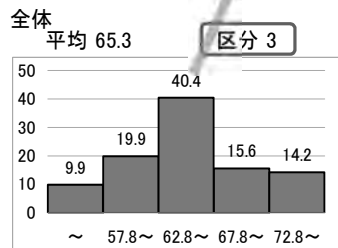
#### 基礎的・基本的な知識・技能



#### 思考・判断・表現



前年度  
5年生  
国語



第3区分に4割以上の学校が位置している。平均正答率より2.5ポイント高くなると、上位3割の中に位置する。

思考・判断・表現のグラフの特徴は5区分全体への広がりをみせる。また、第1区分に約2割の学校が位置する。

## ■ 2 児童生徒質問紙に関する調査

### 質問紙調査のカテゴリ別集計について

※カテゴリ別集計は、小学校第5学年～中学校第2学年のみである。

児童生徒質問項目の中から、香川で課題とされるものについてカテゴリ別の集計を行い、各カテゴリの全体的な傾向をとらえる。

例えば、自尊意識等に関する質問は4つの質問項目があり、カテゴリの得点を以下のように算出した。

- ① 各質問項目において、肯定的な回答ほど高得点になるように、4段階の回答を4点～1点として得点化し、各回答の比率から項目ごとの平均得点(1～4点)を算出する。
- ② カテゴリに含まれる項目の平均得点を合計することで、そのカテゴリの平均得点を算出する。
- ③ 香川県と自校の得点を算出し、香川県での平均得点を0とし、香川県と自校の差を図に示す。

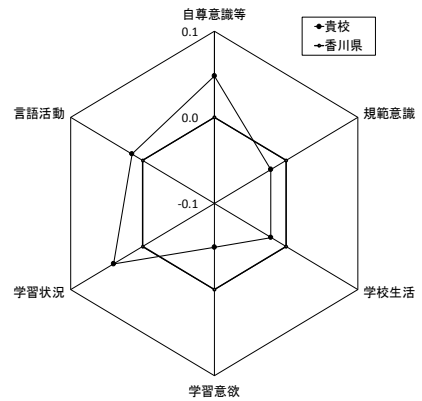
#### 【選択項目】

- 4点 当てはまる
- 3点 どちらかといえば、当てはまる
- 2点 どちらかといえば、当てはまらない
- 1点 当てはまらない

例) カテゴリ【自尊意識等：小学校第5学年】

質問項目	平均得点 (点)	
	自校	香川県
・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことはありますか。	3.63	3.20
・むずかしいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	2.92	3.15
・自分には、よいところがありますか。	2.97	3.00
・周りの人から、感謝されることはありますか。	3.03	2.98
・将来の夢や目標を持っていますか。	3.47	2.96
【自尊意識等】における平均得点	3.25	3.20
【自校と香川県との差】この数値が図に示される。	+0.05	

\* 端数処理のため0.01の誤差が生じることがあります



## 【活用ツール（香川県教育センターWeb サイト）】

② まずはここをクリック

① つぎに分析したい質問紙を選択してクリック

香川県重点項目に関する質問項目（全国学力・学習状況調査との関連）

重点項目	Q&A (ページ)	H27 児童生徒質問紙 質問項目	全国 関連	H27	H26	H25	H24	H23
自尊意識等	22	4 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	4	○	○	○	○	○
		5 むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	5	○	○	○	○	○
		6 自分には、よいところがあると思いますか。	6	●	●	●	●	●
		7 周りの人から、感謝されることはありますか。	—	○				
		8 将来の夢や目標を持っていますか。	9	●	●	●	●	●
規範意識	23	9 学校のきまりを守っていますか。	32	●	●	●	●	●
		11 人が困っているときは、進んで助けていますか。	—	●	●	●	●	●
		12 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。	—	●	●	●	●	●
		13 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	33	○	○	●	●	●
		14 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	34	●	●	●	●	●
		15 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	35	○	○	●	●	●
学校生活	24	45 学校が好きですか。	(24)	○	○	●	●	●
		46 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	26	○	○			
		47 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。	—	○				
学習意欲	25	25 勉強は好きですか。	(48)(58) (69)	●	●	●	●	●
		27 授業は楽しいと思いますか。	—	○	○			
		29 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	(62)	○				
学習状況	26	24 授業では、ノートをいねいに書いていますか。	—	●	●	●	●	●
		26 私語なく先生や友達の話をしっかり聞くなど、集中して授業を受けていますか。	—	○	○	●	●	●
		30 分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。	(47)	●	●	●	●	●
		32 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	38	○	○	○	○	○
言語活動	27	23 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	8	○	○			
		31 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。	40	○				
		33 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	39	○	○	○	○	○
		34 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明するとき、うまく伝わるように、理由を言ったり、話す順番に気をつけたりしていますか。	—	○				
		35 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。	46	○				

※○ … 小5・6年、中1・2年 ● … 小3～6年、中1・2年

※全国学力・学習状況調査と同一の質問については、共通番号（全国報告書参照）を、類似の質問については共通番号に（ ）を付けて表記している。

【児童生徒質問紙調査の質問番号について】

本報告書に記載されている質問番号は、小学校第5学年から中学校第2学年までに行った質問項目である。

なお、小学校第3、4学年に行った質問項目は、児童生徒質問紙一覧(p44)を参照。